



社団法人 日本助産師会

宮城県支部だより

第21号

平成21年3月吉日発行

発行 社団法人日本助産師会宮城県支部

<http://midwife-miyagi.sakura.ne.jp>

〒983-0045

宮城県仙台市宮城野区宮城野2丁目7-48-101

目次

- | | |
|------------------------------------|--|
| 1. ご挨拶 | 5. こんにちは! 助産院さん
富谷町 氏家母乳育児相談室
氏家紀子氏 |
| 2. 事務所から | |
| 3. 宮城県委託事業終了
「安全・安心に子を産み育てるために」 | 6. 助産師の"技"伝承
講演で人を惹きつける技
東北福祉大学兼任講師 田村雪子 |
| 4. 特別寄稿 「今の私まで」
名取地区 生田目サツ子氏 | 編集後記 |



1. ご挨拶

陽春の候、会員の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年度もわずかとなりました。支部長には本部組織強化委員として、ご活躍頂いております。たびたびの東京通いはお疲れのこともあるはずですが、全国の情報を支部に活かしたいとの談です。また、助産所の安全対策委員長は東京でのたびたびの研修を受け、助産所部会に還元しています。

今、役員一同支部総会に向けて、資料の作成、会計監査等、最終的な詰めを行っているところです。皆様には、お忙しいのはよろしいことですが、このように情報が流通し時代の流れが速く、多くの法律・施策が変化していることを把握して、お仕事に励まなければなりません。支部は発信元になりたいと考えております。支部総会にはぜひお足をお運び下さい。会場でお待ちしております。

役員一同

1月18日理事会&新年会
詩吟の先生が増えました。
又、お願いしまーす。



平成21年度社団法人 日本助産師会宮城県支部 総会のご案内

4月25日(土)

10:00~ 基調講演

泉中央病院院長

光川史郎先生

「知っておきたい

思春期男児の性と体」

泌尿器科医師の立場から

13:00~ 支部総会

場所 仙台市情報プラザ

Uネット6階

別紙参照のこと

欠席の方は委任状の

提出をお願いします。

2.新事務所から

念願の事務所に移転しました。会員の皆様には、大変御協力、ご支援頂き厚くお礼致します。

仙台医療センターの近く、仙石線宮城野原駅から、徒歩1分という立地条件です。一方通行路で騒音も少なく、日当たり良好です。駐車場はありませんが、一時駐車は大丈夫そうです。

従来自宅作業、みやぎ子育て・女性健康支援センターで行っていた、事務処理、機関紙作成作業をまとめて、事務所で出来るようになり、大変便利になりました。

本部からの教本・ビデオ等ございますので、ぜひお立ち寄り下さい。これを機会に電話相談・メール相談を受けて下さる方、事務処理をお手伝い頂ける方の申し出をお待ちしています。



多くの方にご寄付を頂きました。お礼申し上げます。

物品

ソファベット	石川初枝様
プリンター台	笠松愛子様
カーテン	高津真理子様
お茶碗・花類	青木喜美代様
食器棚	伊藤朋子様
布団	青木喜美代様
毛布	新田みつ子様
広報用ボールペン	田村雪子
	着順

生田目さつ子	様	2	□
小山みね子	様	1	□
高津真理子	様	1	□
高橋あや子	様	2	□
千田道代	様	1	□
枝松秀子	様	1	□
笠松愛子	様	2	□
照井海子	様	1	□
伊藤祝子	様	2	□
近江靖子	様	1	□
加藤道子	様	2	□
菊池千加子	様	1	□
青木喜美代	様	1	□
田村雪子	様	2	□
山岸和子	様	1	□
小野由起子	様	1	□
松木キネ	様	1	□
小原京子	様	1	□
片桐包子	様	1	□
本田由美	様	1	□
伊藤真理	様	1	□
藤田たけ子	様	2	□
増澤トヨ	様	1	□
鎌田朋美	様	1	□
須江孝子	様	1	□
岩井千加子	様	1	□
後藤あき子	様	1	□
菊地蓉子	様	1	□
加藤美江子	様	1	□
坂詰昌子	様	1	□
澤邊温子	様	1	□
高橋英子	様	2	□
氏家紀子	様	1	□
及川仁枝	様	1	□
中濱秀子	様	2	□
菅原ひろみ	様	1	□
千葉洋美	様	1	□
小林久美	様	1	□
内藤久仁子	様	1	□
木村敬子	様	1	□
伊藤範子	様	2	□
伊藤朋子	様	1	□
蘇武加代子	様	2	□
新田双葉	様	4	□
新田みつ子	様	4	□

3. 「安全・安心に子を産み育てるために」宮城県委託事業終了



大崎会場
わんや産婦人科院長 太田司先生のご講演



沐浴体験コーナー

産科医不足や地域偏在により、妊婦さんは妊婦健診のため遠距離の病院への通院を余儀なくされるなど、妊産婦を取り巻く環境が変化してきている。安全で安心な産科医療体制の整備を推進していく上で、周産期における医療の提供や妊産婦指導、育児を担う助産師の一層の活躍を期待され、この事業の委託を(社)日本助産師会宮城県支部が受けたものである。

「安全・安心に子を産み育てるために」講演と実技体験の2部構成で実施した。大崎会場は2月22日、仙台会場は、3月1日である。多くの方にご参加頂き、会場は満員であった。参加者は、自分を知り、自分を管理し、健診は受ける等多くの学びを得たようである。「病気の予防がよくわかった」「助産師と触れて安心した」等の結果が寄せられた。参加者にはその後メール相談等ご活用頂いている。



仙台会場
仙台赤十字病院 齋藤美帆先生のご講演



支部長の講演

沐浴体験では、助産師と手を触れ合い、温かく親切に対応してくれたとのコメントが届けられた。

ヨガコーナーは、セミナーホールの一角をパネルで囲み実施した。お帰りになるときの穏やかな、そして自信に満ちたお顔を思い出す。



4 . 特別寄稿

名取地区 (社)日本助産師会会計監査 生田目サツ子氏

「私の今日まで」

私の助産師として資格を取得してから早いもので51年、月日の経過は夢のように過ぎております。

片田舎に生を受け妊娠7ヶ月で母の非常な難産で生まれたとのこと、幼少のころから近所のおばさんや、母に聞かされて育ったものです、今から73年前に妊娠7ヶ月で母が転んでお腹を打ったのが早産の原因と聞いております、生命力があっけか当時の食料事情が悪く当時の栄養状態でよく成長したものと親に感謝の気持ちで一杯でした、また母乳の分泌も悪くお粥の上澄みを頼張って育ったと言われております。

幼少の頃は本当に身体が弱く中学時代までは学校もよく欠席することが多くそんなある日、母の一言が私の脳裏にしみつき離れませんでした。産婆さんて、いい仕事だね、という言葉だったのです。当時終戦を迎え農家にあっても食料難で身にまとうものも不自由な時代、私の家庭も父が年老いていたため、大変な生活の中で育ったのでした。当事の出産は殆ど家庭分娩で現在のような施設分娩は考えられず本当に現在は良き時代になったものです。

私の母が再婚し私が生れた時、父は54歳でした。兄二人妹一人異母兄妹4人の家庭環境で育ち異母兄妹の兄達2人は戦争で死亡して仕舞い、働き手のない我が家では益々生活苦となり、小学時代から世の中には生活の変化のあることを知らされたものでした、母は非常に学問が好きで自分が学ぶことが出来なかった事を子供たちに託すおもいで、懸命に働きその成長を見守り私たちの養育に努めたようでした。夜、炉端を囲んで苦勞話を毎晩のように聞かされ、一日も早く一人前になって母を安心させて上げたいと、何時もいつもそう思い育って参りました。そうこうしている中に私も勉強することは好きでしたが、高校進学となり生活苦の中から受験する事はむずかしい、しかし、高校にも行きたい、受験だけでもと思い、メ切ぎりぎり願書を提出、受験したら入学したい、合格しても親に苦勞をかけると思いつつも合格入学、在学中も何度も退学を考えたものでした。小学時代の恩師に手紙を書き相談致しました。



私も、自分勝手な事をと今でも恥ずかしく、恩師にはご迷惑をかけお世話になることになりました。それでも、高校へは行き卒業したい、そう思いながら片道徒歩で2時間の道をマラソンしながら日曜日以外は休むことなく通い続け卒業することが出来たのです、その恩師も5年前に亡くなりましたが、卒業出来たことを非常に喜んで下さいました。

小学校の時の恩師のお陰で、高校を卒業し3年間一日も休まず通学した思い出の学校、遅刻日数が多く卒業する時は、皆勤賞は頂けませんでした、3年間、早朝に学校に送り出し、夕方帰る私におやつを手迎えに来てくれた母に感謝の気持ちで一杯でした。

次は、産婆の資格を得るため更に看護学校へ進み助産婦学校への進学と夢の様な将来への希望で一杯でした。当時、国立仙台病院付属看護学院私は苦手の学科の生物学を高校の図書室の参考書を見て勉強し仙台での受験に備えました・

一日も早く働き、私たち家族のために身を粉にして守ってくれた母の恩に報いたいと思うばかりでした。

仙台は初めての所、受験日には沢山の人が、当時は10倍の競争率でしたが、合格の通知を受けたときは本当に嬉しく非常に喜んだものです。物不足、食



料難の時代にあつて、国立病院では学費、制服、食費、等免除され助かったことで
教本は赤本（赤い表紙の本）で高価なもので自費でしたが、兄の支援で3年間の学業を修了することが
出来ました。

入学して3ヶ月後、右眼が迴転斜視という病気になり物が二重に見えて歩行困難と眼の痛みに困る生
活、階段の昇降に困る始末、眼科の治療に5ヶ月もかかりました。特に、寮生活での電灯の明りが暗く
私の目には最悪だったのです、夏休みも返上し寮に残って治療を受けたものでした。

臨床実習では貧血を起こし実習現場から逃げ出したこともありました。実習のモーニングケアもあり
私は精神的にも全く余裕がなくなり患者さんへ親切に見舞ったり優しい言葉をもかける事も出来ませ
んでした、教官にも注意を受けたこともありましたが戴帽式の後に少々自覚するようになったものです。

寮生活にも慣れそれなりに経験いたし食生活（当時朝食パン脱脂粉乳、昼うどん、夜ご飯味噌汁煮物
等）にも慣れ、おやつは当時寮生が販売していたアメ玉、キャラメル、1ヶ1円で5ヶを買って食べた
記憶があり懐かしく思っております。そのように夢中で学業に励み卒業することが出来ました。長いよ
うで短い3年間でしたが45名全員が目出度く卒業できました。卒業式には母も片田舎から遠い不慣れ
な道のりを出かけて来て喜んで出席してくれました。

欲望というか夢は膨らみ次は助産婦の資格を得る事でした。助産婦学
校は幸いなことに東北大学付属病院助産婦学校があり卒業しなければ
なりません。再度一年間修業が必要です。入学試験には合格しまし
たが、家族のことを考えると大変悩みました。しかし、母の了解と兄
の支援を受けながら同僚19名と共に寮生三部屋に別れ実習と勉強
に励み、同僚の中には看護婦経験のある先輩もおり教えられた事も
多く、国家試験合格に向け只々夢中で勉強したものです。一年間の助
産婦学校での生活、臨床での先輩の指導、異常分娩を見る辛さ、帝王切開
の際の母親の苦痛を目の当たりにして、非常に残酷な事と思ったものです。当
時の帝王切開は局所麻酔で分娩後に全身麻酔をかけるという時代でしたから、
は強し、感動しておりました。一年間の学業を修了し卒業見込みになった時は過去の苦勞をものともせ
ず一日も早く職業につき給料をもらいたい、と思う気持ちを強く感じたものです。私は、家族の無理な
協力があつたので、順調に学業を済ませることが出来、本当に良かったと感謝いたしました。



母

国家試験の後、大学病院産婦人科に就職できたことに、嬉々として同僚の皆さんと、初めて映画を見
に出かけた事は懐かしい思い出となっております。

初月給を頂いた時は飛び上がるほど嬉しく給料の半分を母親へ送ったものでした、送金しに院内の郵
便局で産婦人科の先生にばったり会い、家に送金したことを知られ話題になってしまったものです。よ
うやく母の希望の一つを達成する事が出来ました、少々でしたが送金を続けました。

母も、町に出かけた折、仙台行きのバスに乗っちゃたと言つては時々病院に顔を出し私を尋ねること
が楽しみだったようで、その度、実家に電報で母の動静を知らせたことも何度かありました。私は、友
人と三人で、病院近くに部屋を借り休みの時、利用するようにした為母を泊めることが出来たのです。

そうこうしている間に一年が瞬く間に過ぎていきます、三交代の勤務で町に出かけることも少なく、
1~2年と過ぎ同僚の友人の兄との縁談があり両親からも好まれ結婚する事になりました。お相手の方
は、外国航路の商船に乗る船員であり帰宅するのは一年に一度という特殊な職業、私は、想像もつかず、
考えも及ばなかったのですが、縁というもの、不思議なものです。

それから、数年、仕事を続けながら二人の子供にも恵まれましたが、自然分娩ができず二人共帝王切開
で出産、その時、先生方の配慮もあり全身麻酔で出産、当時は、まだ、全身麻酔による分娩は少なく児
に対する影響もあるとして少なかったものです。勤務中は事故もなく七年間、全うできたことに感謝す
る次第です。

大学病院勤務中、15年間の未熟児保育成績の変化について調査研究（カルテ中心）発表したこともあり
ます、友人二人での研究、仙台駅前、日の出会館での発表は緊張感で夢中で行ったことを思い出しま
す。

第2子出産の後、育児に専念することにして、退職、仙台の住まいから、昭和42年10月に現在の名
取が丘に引越し、あれから、41年の歳月が流れています。

現在の名取に住まいを持つ事になったのも、母が買ってくれた新聞の夕刊に、県分譲地としての開発
広告で知り、その時、夫も休暇で帰宅していたので、早速現地周辺を下見、陸作豆畑を見て驚きまし
たが、名取駅（当時増田）からも近いことから申し込み、2年以内の建築条件である為資金面でも大変で

した。

昭和41年に住宅を建築、当時は、交通状態も悪く、仙台に出るのも増田駅まで徒歩で30分かかり不便でしたが、住宅個数も2,000世帯の増加と共にバス路線が開通され大変住みよい団地となったものです。

現在は、この団地も、高齢化が進み若者が戻らず、過疎地域化が進み自家用車でなければ買い物も出来なくなりつつあります。頼りの路線バスも回数が少なく、時代の流れとは言え40年間の変化に驚くばかりです。

引越し当時、2人の子供達は、2歳・4歳でしたが、現在長男は、近くに新居を構え孫も12歳、次男は東京に住まいを持ち、孫も15歳の高校生になります。子供たちに、手のかかる時期に母親が脳卒中で倒れ強度の左半身不随その介護に10年余自宅療養に兄妹の協力があって精一杯看護、夢中で母の看護と、子育てに明け暮れたものですが、母、他界した時、子供達も中学一年・二年生で素直に成長してくれたことに感謝しております。



私、其の後体調を崩し、血圧上昇、体重の増加等、健康を取り戻すべく悩んでいた矢先に市の保健課の看護婦さんからアルバイトの話があり、後に折りよく、岩沼保健所管轄新生児訪問の仕事をお願いすることになったのです。

以前から折を見て助産婦の新生児訪問を希望していましたが申請方法も判らず困っていましたが、チャンスは本当に不思議なものです。自転車しか乗れなかった私は、地域の訪問は無理ではと思いましたが、岩沼保健所管内では、当時17名の先輩さん(保健婦、助産婦の第二の職場)達が働いておりました。

15年ほど専業主婦で過ごしていた私には希望と共に不安の気持ちも強く、恐る恐る保健所に出かけ、採用してもらった記憶があります。毎月集まり勉強会があり、先輩さんの体験を聞き、専門のお医者さんの講話、もあり次第に仲間入りしていきました。当時私は、47歳、訪問最初は月に1~2例だったのですが、先輩の皆さんも高齢者となり次第に少人数で、名取では2人で訪問した時期もありました。家庭訪問することで驚くことも多く身体の弱い新生児に出会い市の保健婦さんに相談し、何度も一緒に訪問をお願いし助けて頂いた事もありました。

早期に赤ちゃんの異常がわかり病院への紹介をお願いしたこともあります。快復して退院し結果を報告された時、早期に判断、治療する事が出来たこと本当に我がことのように非常に安心し喜んだものです。岩沼保健所から名取市役所の保健課に事業が移管され私たちの仕事も市へと引き継がれました。当時、出生数の65%を訪問していました、夫の協力もあって、平成19年9月までに3,500名の新生児訪問を行っております。その他に、市の乳児検診に月三回参加、私はもう、71歳になっていました、年齢相応に次第に疲労感を覚えるようになり、不眠症になり仕事の限界を感じまして訪問件数を少なくして頂きましたが、赤ちゃんの育児の手伝い又、そのお母さんにアドバイスするには健康で、若い保健師に限ると思ひ後輩に託しました。現在は、保健師さんの勧めもあって、地域の「まどかの会」に月一回、独居生活者の人達の集いに参加、血圧測定等の手伝いなど、自分の為にも少しでも役にたちたいと思ひながらお手伝いをしております。

新生児訪問は25年間続け沢山の事を学びましたが、お母さん達の力になれたのだろうか時々思うこともあります、そのお子さん達も社会人になり活躍しており、又、小さいお子さんの成長ぶりを知らせて下さる人も居り、助産師であった事に非常に喜びを感じる今日この頃です。お陰様で日本助産師会からの会長賞・家族計画日本協会賞・名取市長衛生功労賞等を頂き、人生の糧と感謝いたしております。

以前、助産師会の野窪先生の時代に県民会館で、私の新生児訪問について、と言う題名で発表したことも、忘れられない思い出となっております。

名取市での25年間、先輩さんには勿論のこと後輩の皆さんからも大変親切にして頂き、楽しく仕事が出来たことに感謝いたしております。今後は、健康に留意して家庭生活を大切に過ごして参りたいと思っております。





5. こんにちは!! 助産院さん

富谷町 氏家母乳育児相談室 氏家紀子



振り返ってみると 病院勤務は5年しかしていません。東北公済病院 産婦人科病棟勤務の1年目、助産師 澤辺温子先生の開業する 沢辺マニティコンサルタントに研修に行きました。そのことが現在私が開業していることにつながります。

澤辺先生は乳房のことと 赤ちゃんの気持ちがとてもよく分かる先生で、そこに通うお母さん達は安心して育児をしていました。不機嫌に泣いてばかりいる赤ちゃんがいても、お母さんが乳房の手当てを受け、乳房が穏やかな表情になっていくと、赤ちゃんも喜んで母乳を飲むようになり、穏やかになっていくのです。

自分も乳房のことが分かるようになりたい、答えの出せる乳房の手当ての技術を身につけたいと思い、先生のもと、勉強を続けることに迷いはありませんでした。

又、自分でも2人の子息を先生の手当てを受けながら母乳で育てることができました。子育て中は勉強から離れていましたが、再び勉強する機会を得ました。しかし、勉強するほど上達しない自分に悩みは深まり、開業については消極的でした。

その一方で、子ども達を母乳で育てられてよかったという思いは、子どもの成長とともに薄くなっていくのではなく、むしろ深まっていくものだと感じました。母乳で育てたいと思っているお母さんに自分でもできること、伝えられることがあると思い、平成13年に開業届を出しました。平成16年には、自宅敷地内に小さい相談室を建て、現在に致っています。

赤ちゃんは乳房が硬ければ「おなかいっぱい飲めません。おっぱいがおいしくなければ喜んで飲みません。

赤ちゃんがおいしくおっぱいを飲んで笑顔でいられるように、赤ちゃんに答えをもらうつもりで、乳房の手当てをしています。



〒981-3352 黒川郡富谷町富ヶ丘1-10-6
氏家母乳育児相談室
氏家紀子

6.助産師の技継承コーナー

「講演で人を惹きつける技」

東北福祉大学兼任講師田村雪子

最初の3分で「この人の話を聴いてみよう」と思わせることです。ですから、最初から会場を暗くして、パワーポイントを写すなどはしてはいけません。導入時は会場を出来るだけ明るくして行います。そして挨拶は出来るだけ明るく、爽やかにします。あなたの個性や生き方が少し入っているのがよいです。また、人伝えやネットで対象校の特徴を事前に調べて、話題に入れることで親近感が増します。

服装についてですが、中、高校生は制服で待っていてくれますので、それに相当する服装にして頂くのが妥当です。上着は必ずジャケットをはおって、折り目がついたスラックス、またはスカートです。若さをアピールするためなのか、ジーパン、カーディガンでいらっしゃる方もいますが、余程の美人さんならよろしいでしょうが、無難にまとめたほうがよいでしょう。

それから、当たり前のことですが、主催者側との事前打ち合わせは3~5回以上必ずすることです。発達途中の子ども達ですから、特に中学生は、禁句の言葉が学校ごとの教育段階によって異なりますから、確認が必要です。

内容に関しては、助産師は知識を十分に持ち合わせていますが、伝え方に工夫が必要です。

事前資料を作成し、パワーポイントの構成・操作は必携と考えた方がよいでしょう。

この後は、4月以降に開催予定の「助産師会思春期講演研究会」(課題)の方で、お伝えします。詳細は、同封の資料をご覧ください。

お知らせ

住所・ご氏名・勤務先の変更について早急に本部と支部にお知らせ下さい。

「助産師」機関紙巻末の変更届けで本部・支部にFAXをお願いします。

会員証や支部便りの返送が多くなっています。二重の手間と経費がかかります。よろしくをお願いします。



編集後記

今年度は、ホームページの作成、宮城県委託事業、事務所の獲得等、役員一同フル操業でした。特に独立した事務所獲得に向けては、多くの会員さんからご厚情を賜り感謝しているところです。助産師が団体として動く拠点になるはずですが、役員会、電話相談のみならず、会員の情報交換の場としてご活用頂ける様、準備をすすめている所です。遠方から研修にお出での会員さん等、安価に宿泊も出来そうです。

なお、各研修会の案内等、ホームページのTopix 覧に掲載しておりますのでご覧ください。益々タイムリーに情報をお届けしたいと考えます。

今年は、新しい事業やプリンターの買い替え等があり、今回の機関紙は経費削減のため白黒印刷としました。カラーでご覧になりたい方はホームページに掲載してありますので、そちらでご覧ください。

それでは、お風邪など召されずに、支部総会4月25日にお会いできることを楽しみにしております。

機関紙担当 田村雪子

訃報

我妻ちか子氏(明治38年生まれ)
平成21年1月18日永眠されました
ご遺族 大崎市古川北町2-1-5
我妻則義 様

